



20歳買いますか？



@me

## 20歳買いますか？

---

34歳、独身M子、OL。5歳下の彼氏と付き合って4年。そろそろ結婚したいと思う年頃だが、なかなかそんな雰囲気にならない毎日に苛立ちを持ち始めていた。親からは「あんたいつまで独りでいるつもりなの？」とせつつかれ、友達は次々と子供を産んでは育児話に話を咲かせる。結婚式に出るのもいい加減飽き飽きしてきた。職場の上司からは色目で見られ、適当にあしらうにも機嫌を損ねる訳にもいかず、虚しく左手の指輪を飾りに付ける日々を送っていた。

ある日、一枚のはがきを受け取る。送り主は不明。裏には「20歳、買いますか？」とメールアドレスだけ書いてあった。

「なんなのよ・・・」

M子は、始め無視するが、すぐにはハガキを捨てずに、見覚えのないメールアドレスに目をやりながら、部屋の机に放り投げた。

M子はこんな毎日、そろそろ嫌になり始めていた。成人した頃は、新しい人生の門出に、夢をふくらませていた。合コンでは男子からちやほやされて、彼氏もなかなかイケていた。学生生活とは名ばかりで、毎日が遊んで暮らせる生活に満足していた。それが卒業後、就職してからは保険の営業まわりで客先の情報収集に疲れ果て、営業成績の競争として壁一面の棒グラフが貼り出されていた。残業が続くと寝ても疲れが取れなくなり、だんだん毎日の化粧すら面倒になってきた。職場で知り合った年下の彼氏は、ちょっとだらしない世話のやける感じの彼だった。世話好きのM子は、仕事の手ほどきや身だしなみ、健康状態の心配をするうちに、だんだんとほっこなくなっていました。

「そろそろ結婚して新しい人生を送りたいな。」

心のなかでそう願うが、なかなか自分から彼氏にいいだしにくいシャイなところもあった。無言で表情に表すこともあったが、そんな微妙な変化を彼氏が察知するわけもなかった。

「もし、20歳に戻れたら、もう一度人生をやり直すことができたら・・・」

そんな思いが、ふとM子の頭をよぎった。

「まさかとは思うけど」

M子は、フリーメールアドレスをわざわざつくり、どうせ匿名ならわからないだろうと、ハガキの裏のメールアドレスに、「買います」と返事した。メール送信後、エラーメールはなく、返事もなかった。M子はその夜、そのまま床に付いた。

翌日からM子は20歳の若さを手に入れていた。肌のハリ、髪の艶、脂肪の付き具合、見違えるように変わっていた。すっぴんでも十分なほど、白い肌に頬と唇も赤く映えていた。

生活も変わり、人生が薔薇色に変わったかのように見えた。彼氏からはプロポーズされ、結婚式

の日取りもトントン拍子に決まっていった。職場では寿退社の話でもちきりに、親からも手放しで認められていた。友達からもお祝いのメールや、毎日の会話が弾んだ。

「若いっていいわね」

そう思いながら、不思議なメールを送った時のことふと思い出した。ある日、またハガキが届いた。そこには督促状と書いてあった。

「督促状 20歳お買いあげ、ありがとうございます。つきましては、お支払いとして1億円頂戴いたします。払えない場合は、魂を頂戴いたします。」

M子はぞっとした。1億円なんて払えるはずがない。詐欺として訴えようにも、相手が不明。自分が20歳に若返ったことはM子にしかわからなかった。魂を取るってどういうことだろうか？死ぬということ？そんな暗闇がM子を包んでいった。M子はハガキを破り捨てて、ゴミ箱に捨てた。

翌日、M子は昨日のハガキの事が気になって、夜もろくに眠れなかった。彼氏からも大変心配されて、体調を崩した。体重は大幅に減り、食欲もなくなっていた。見るからに目はくぼみ、やせ衰えていき、親も心配していた。しかし、M子が何に悩んでいるのか、周りには理解できなかった。M子も誰にも相談できなかった。職場も休みがちになり、とうとう結婚式の日取りもキャンセルした。

ある日、M子は破り捨てたハガキを探そうとゴミ箱を探した。しかし、ハガキは見つからなかった。ゴミと一緒に捨てたのだろうか？メールの送信記録を見たが、「買います」というメールの送信記録は残っていなかった。M子は訳がわからなくなっていた。鏡を見ると、20歳の若々しさはすっかり変わり果てて、35歳の自分の姿が映っていた。M子は不思議なハガキとメールについてネットで調べたが、何も出てこなかった。だんだんM子は、外出することも減るようになっていった。

2週間後、夜も眠れないで疲れ果てたM子の元に一通のメールが残っていた。

「お支払い、ありがとうございます。あなたの魂を頂戴しました。」

そのメールアドレスは、あのハガキの裏のメールアドレスだった。M子はすぐ返信した。

「私に何をしたの？20歳の私を返して！！」

メール送信後、送信エラーが返ってきた。「そのようなメールアドレスは存在しません」。

M子は、呆然とした。この1年、20歳の若さを取り戻したが、最後の2週間で1年分元の歳を越しただけだった。一体なんだったのだろうか？あのハガキは……。

そして、ある日、M子は、宛先の書いてないハガキを受け取った。裏には「20歳買いますか？

」と書いてあった。そして、一枚のメモがはってあった。

「このハガキを宛先に送ることで、あなたは1歳分の魂を取り戻せます。」

M子は、ハガキの宛先を書いて、メモに書いているメールアドレスを記入して、ポストにハガキを投函した。

## 20歳買いますか？

<http://p.booklog.jp/book/23701>

著者 : @me

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/atommy/profile>

発行所 : ブログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/23701>

ブログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/23701>